

令和3年度 第3回
岡山県住生活基本計画懇談会

議事概要

1 開催方法

本県における新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、書面開催とした。

2 開催期間

令和4年2月15日（火）～3月3日（木）

3 審 議

当懇談会委員に次の資料を送付し、意見照会を行った。

- ・資料1：岡山県住生活基本計画（案）
- ・資料2：市町村、関係団体等から寄せられた意見と県の考え方
- ・資料3：第2回懇談会以降の変更内容

4 委員からの主な意見と県の考え方

意見の要旨	県の考え方
リフォームは空き家の有効活用の柱と考えるので、目標3の冒頭の2段落目について、「良質な空き家の賃貸、売却、リフォーム等他用途利用など～」としてはどうか。	空き家の賃貸、売却、他用途利用に当たっては、リフォームも必要であると考えています。本計画では、そうしたことへの対応として、建築士等の専門家の派遣や県リフォーム推進協議会による専門相談、DIY型賃貸借の活用等の施策を盛り込んでおり、空き家の利活用に向けたリフォームを促進していきたいと考えています。
地方では、集いの場（コミュニケーションの場）がない、または少ない状況が伺えるので、目標4（2）の主な施策例に「○生活関連施設（病院、店舗、集会場、官公庁舎、公園等）の普及推進」を追加してほしい。	集いの場を含めた生活関連施設の整備は、市町村のまちづくり・地域づくりの中で、地元において検討されるべきと考えます。県としては、市町村のまちづくりに係る計画の作成支援や活用可能な制度の情報提供等を進めていきたいと存じます。

その他の意見
<p>計画に基づき、公営住宅等を住宅確保要配慮者のために活用するなど、積極的な施策をお願いします。</p>
<p>住生活基本計画には多くの項目が記載されており、その重要性が感じられる。住まいに関することは生活の中でも大きな比重を占めており、この計画を広く県民に周知することが求められる。</p>
<p>「災害後の復興計画（ビジョン）」の作成に努めてほしい。災害前・災害時に対する施策は盛り込まれているが、災害後の記述がほとんどないように思う。被害状況のある程度想定し、災害後に作成するのではなく、あらかじめ復興後の町の将来像を見据えて復興計画を作成しておく必要を感じている。</p>
<p>高齢者のみの世帯または高齢者の一人暮らしが増加しており、火災で亡くなる高齢者もいる。防災・防火の点も重視した高齢者にやさしい住環境を期待する。また、デジタル化など社会環境の変化が著しく、シルバー世代には暮らしにくい世の中だと感じており、ハード・ソフトの両面からしっかりと支えてほしい。</p>
<p>空き地や山の斜面などを利用した太陽光発電の設置は、今の脱炭素の流れを考慮すれば必要なことだと思う。一方で、開発に伴う伐採によりCO₂を吸収する森林が少なくなっている。住宅など建物の周囲にもしっかりと緑を取り入れてほしい。</p>